

第3期青葉区地域福祉保健計画(素案)に関する 意見募集の実施結果について

1 実施概要

(1) 実施期間

平成27年7月中～9月11日

(2) 周知方法 素案冊子の配布 2000部

ア 素案冊子の配布

区役所、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、行政サービスコーナー、地区センター、コミュニティハウス、地域子育て支援拠点、等

イ 関係団体等への説明

連合自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、青少年指導員連絡協議会、スポーツ推進員連絡協議会、区PTA連絡協議会、老人クラブ連合会、障がい当事者部会、自立支援協議会、食生活等改善推進委員会、小中学校長会 等

ウ 青葉区ホームページ、広報よこはま青葉区版8月号への掲載、FMサルースでの周知

2 実施結果

(1) 意見総数

総計128件

※「3 意見内容」には同一内容の意見も含まれていますので、意見の合計数は「意見総数」と一致しません。

3 意見内容

(1) 計画全体に関するご意見

	意見	区としての考え方
1	「青葉区ならではの」特徴が出されていて、良い内容だと思う。	御期待に添えるよう、取組を推進していきます。
2	第1期・2期計画の延長として、地域の実態の見直し、住民の意見の分析をベースに計画が策定されていることは、的確。	第2期計画の振り返りと地区別意見交換会等の意見を踏まえ、第3期計画では、めざすべき姿を明確にし、①次世代に継承する「地域のつながり」のあるまち、②住み慣れた地域で誰もが安心して健やかに暮らせるまち、の2つを推進の柱として掲げています。第2期計画での「課題1～8」については、一部整理を行い、取組の推進に必要な6つの「視点」として位置づけています。
3	福祉保健に関わるネットワークを縦・横に連携・結んだ計画になっている。	御期待に添えるよう、取組を推進していきます。
4	地区別計画については、意見を求めている。	地区別計画につきましては、15の連合自治会町内会エリアごとに意見交換会を開き、地域の皆さんと一緒に策定しました。
5	地域、現場における「地域の自治、福祉の担い手の確保・継承」が最大(最難関)のテーマになると思う。	御意見のとおり、次世代の継承は重要と考えており、推進の柱にも位置づけております。
6	「地域ぐるみの対応」が肝要となる中で、現行の地域自治を支えるシステムの大幅、根本的な見直しが必要な時期にあると考えます。	御意見を踏まえ推進していきます。
7	「現場・地域がしっくりしない」との思いがあり、意見をさせていただきました。行政の施策検討・展開にあたっては、地域メンバーとして協力させていただき所存です。	今後も地域福祉保健の推進に御協力をお願いします。
8	振り返りとして、区域全体に共通するテーマとしてまとめてしまうとざっくりとした形になってしまうので、具体的な細かな意見を大事に各地区の計画が立てられると良いと思う。	地区別計画につきましては、15の連合自治会町内会エリアごとに意見交換会を開き、第2期計画の振り返りを踏まえ、第3期計画を地域の皆さんと一緒に策定しました。
9	いかに具体的な案を事業化して地域を良くしていくことにつなげていくかだと思う。	御期待に添えるよう、取組を推進していきます。
10	各地区の公的団体や活動グループ等がつながって協働で「これをやっていく」という実になるものを計画されたいと思う。	区計画の「推進の視点2」において、地域で活動している人々・団体がよりネットワークを活用できるための支援の取組を掲げております。また、地区別計画の推進会議を団体やグループの情報交換の場として活用していただくことで、地域のつながりをいかした取組の実施につながっていくのではないかと考えております。
11	地区の思いがそれぞれに配慮されて良い計画だと思います。転入して10年、これからも安心して、住みたいと思っています。	御期待に添えるよう、取組を推進していきます。
12	地域福祉保健計画を知らない人が多いと思う。それぞれの世代に合った方法で情報を発信し、多くの人に知ってもらい、関心を持ってもらうことが第一歩だと思う。	多くの区民の皆さんに知っていただけるよう、様々な媒体や方法で、計画のPRを行っていきます。

13	「支えあい安心して暮らせるまちづくり」は、とても良い取組だと思います。どの年代の人達も、お互い支えあって生活していけたら良いと思います。	御期待に添えるよう、取組を推進していきます。
14	青葉区は、他地域からの若い子育て世代の転入者が多数います。地域のあたたかい支援があるとより住みよい青葉区になると思います。	青葉区では、平成26年中に17,917人が転入しています。いただいた御指摘を踏まえ、今後も子育て世代への支援を充実していきます。区計画の「推進の視点4」では、子ども・青少年の健全育成についての取組をまとめています。
15	抽象的かつ総花的になりがちで全て薄くなりがちである。最重要課題に絞り、そこへの支援がその他の視点と結びつくような取組が肝心。	区計画の「推進の視点」ごとに、「5年後にめざしたい青葉区の姿」や重点取組を設定し、推進していきます。
16	立派な計画だと思うが、あまり一般の方に浸透していないのが残念。この計画を知ってもらうことからまず始めたい。	多くの区民の皆さんに知っていただけるよう、様々な媒体や方法で、計画のPRを行っています。
17	生き生きプランの延長上で出来た地域の拠点に、少しずつ来訪者が増え、相談等につながるケースもあり、今後も継続が重要。地域の理解も深まれば嬉しい。	今後も地域福祉保健の推進に御協力をお願いします。
18	一人ひとりの活動が大きな活動の基本です。一人ひとりが少しずつ活動していきたい。	
19	地域で行っている「まちづくり」や「子育てネットワーク」と重なる部分が多いので、連携を取って共に活動できないだろうか？と思う。	御意見のように、同じ地域にある各種のネットワークは、お互いに連携を取れるように努めていきます。
20	子育て中のママは近所の親世代の方たちの存在が心強いはず。地域の方々が気軽に話しかけたり、挨拶したりする関係から身近な相談相手になってくれるような温かい関係が築ける地域(地元)が理想です。	いただいた御意見を参考にし、区計画の「推進の視点4」の「地域の皆さんが取り組むこと・心がけること」に、「あいさつや声かけ等お互いに思いやり、助けあう大人の姿を子どもにみせていこう」という内容を盛り込みました。
21	比較的高齢ではない、中年後半の人に、もっともっと関心を持ってほしい。	御意見をいただいた内容は、区計画の「推進の視点1」の重点取組にも位置づけており、若い世代の人たちが関心を持てるよう、地域の活動等に参加しやすい工夫をしていきたいと考えています。
22	地域のボランティア育成について、若い男性・女性・子どもたちが参加できる休日の活動を増やすと良い。	

(2) 地域のつながりづくりについて、今後の取組についてのご意見

意見		区としての考え方
1	次世代への継承は、キャンペーンやイベントを通して積極的に推進していく計画が必要だと思う。	御意見のとおり、次世代への継承は重要な課題であり、計画の「推進の柱」にも位置づけています。若い世代の人たちが関心を持てるよう、地域の活動等に参加しやすい工夫をしていきたいと考えています。
2	男性が興味のあるような勉強会、運動等で家の外に目を向けさせる。	区計画の「推進の視点1」の重点取組に位置づけ、地域活動、ボランティアの参加のきっかけづくりを進めていきます。いただいた御意見を今後の取組の参考にさせていただきます。
3	趣味でも何でも地域活動が出来るとい方を募ってみてはどうでしょうか。	
4	地域のボランティア育成について、若い男性・女性・子どもたちが参加できる休日の活動を増やすと良い。	区計画の「推進の視点1」の重点取組に位置づけ、若い世代の人たちが関心を持てるよう、地域の活動等に参加しやすい工夫をしていきたいと考えています。
5	地域の担い手として、企画会議に学校PTA世代、子ども会役員等を巻き込んでいく。	
6	若い人たちが参加しやすいように、活動日や活動場所等を工夫する。	
7	60代前半(定年前後)の方を対象に、ボランティアの説明会を開催する。	
8	気軽に参加出来る講演会や研修でスキルや知識を広げていけると良い。	区計画の「推進の視点1」の重点取組にも位置づけ、団塊の世代の人たちへの地域活動、ボランティアの参加のきっかけづくりを進めていきます。
9	ボランティアはやってみると以外に楽しいこともあります。まずは自分から活動することから活動する。	
10	民生委員など個々の小さな力に頼るだけでなく、たくさんの小さなボランティアを集めて大きな力にする。	

11	【視点1】 地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成・活用	地域の福祉活動は、行政の傘下にある委嘱委員の構成が多く、関心のある個人が話し合える場がない。ボランティア活動をしてくださりそうな人材は積極的に発掘したほうが良い。	区計画の「推進の視点1」には、「担い手の人材の育成、活用」を掲げており、新たに地域福祉保健の担い手が増えていくよう、地域の皆さんとともに、関心がある人の地域の福祉保健活動への積極的な参加を促していきたいと考えております。 また、御意見のとおり、地域の福祉保健活動の担い手は、委嘱委員の皆さんが多く活躍されております。地域ケアプラザ等で関心のあるテーマの話し合いに参加できたり、情報交換の場の機会が持てるようにしていきたいと考えております。
12		肩書きがない民生委員OBや若い世代を”地域のお助け隊”の様な形で、活動してもらいたい。	区計画の「推進の視点1」の取組の参考にさせていただきます。
14		小さな頃から福祉活動に関わる機会を増やす。継続的に福祉活動に関わり、当たり前になるようにする。福祉系大学生、PTAの関わりをつなげていくことが必要。	区計画の「推進の視点1」の重点取組に、「子どもの頃から福祉を身近にとらえられるような教育・機会を増やしていく」ことを掲げています。 また、区計画の「推進の視点4」の重点取組に、「学校等と連携し、子どもや保護者も参加できる地域活動や福祉保健に関する取組を充実させていく」ことを掲げています。
15		教育の場として、職場体験的な一部としてでなく、子ども達に必要な性を訴え、実践出来る場を増やすように、各部署でタイアップしていく必要がある。	
16		小中学校の総合学習で、地域を考える授業があると良い。教師をリタイアされた方々の力を借りて、地域ごとのプログラムを作り、子ども達に課題を出し、一緒に考えていく時間を持つてほしいと思う。説明ではなく、共に考える取組が必要だと思います。	
17		現在行っている活動を町内会や地域の集まりがある場で、アピールしていくことが大切。若い人に引継いでもらえる様な土壌づくりが必要。	
18		自治会活動等を通して、顔の見える関係づくりが必要、最近はどこでも委員のなり手が少ないのが地域の悩み。	地域福祉保健計画は、御意見のとおり「顔の見える関係づくり」をめざしている計画です。第2期計画の振り返りにおいても、次世代の担い手不足は区域全体に共通する課題となっており、区計画の「推進の視点1」に、「地域福祉保健の担い手として団体及び人材の育成・活用」を掲げ、様々な取組を進めていきます。
1		【視点2】 活動の土台となる情報・機会・ネットワークの充実	地域のつながりづくりは重要だと思います。現在地域にはたくさんのつながりや連携の機会はあるものの、会議ばかりで実質的なつながりに繋がっていない部分も多い印象を受けます。会議のあり方や、内容、意見の出し方等それぞれ工夫すればもっと建設的な成果が生まれるのではないかと思います。
2	高齢者だけでなく、子育て中のママ、それを支える住民の人みんなが力を合わせてより良い地域ケアプラザの活用を考えるのに、地区社協の協力も必要。有志で勉強会もあっても良いと思う。		身近な地域の活動拠点である地域ケアプラザを活用し、高齢者サロンや子育て広場等を開催している地区社会福祉協議会も多くあります。地域ケアプラザを活用している団体が情報交換をする機会を設ける等、地域のつながりを強めていくための取組の参考にさせていただきます。
3	地域の行事が増え交流しやすくなったが、日程が重なった連続することが多い。地域の行事カレンダーを作成して、皆が計画時に参考になる様にしたら良い。		計画推進の参考にさせていただきます。
4	地域の人が楽しめ、地元の情報盛りだくさんの地図を作成。		
5	PTA、自治会への参加、任意だけどやったらいいなあということを伝える方法、場が欲しい。		計画の推進を通じて、地域ケアプラザと学校の連携の強化に努めるとともに、地域交流コーディネーターや学校地域コーディネーターが協力し合える関係づくりにも取り組んでいきます。
6	たゆまなつながりをつくる「仕掛け」を、ケアプラザや学校を中心に、コーディネーター(ケアプラザの地域交流コーディネーターや学校・地域コーディネーター)が動かす「仕組み」をぜひ作って頂ければと思います。		
7	地域活動している団体やグループ情報の取りまとめをする組織と仕組みが必要だと思う。		
8	(PTA)の会長になって、地域の方々子どもたちを見守る活動をしていることを知った。もっと他の方にも知ってもらわなければならない。		区計画の「推進の視点2」の重点取組に、「必要な情報が的確に届くよう、さまざまな機会や媒体を活用して、情報提供していく」ことを掲げています。また、「地域の皆さんが取り組むこと・心がけるとよいこと」に、「地域の活動の魅力を発信しよう」という内容を盛り込みました。
9	自治会館など、誰でも立ち寄れる居場所づくり。ボランティアをやっても良いという方は多いと思う。		区計画の「推進の視点2」の取組に、「地域のつながりをつくるために、地域の交流の機会を増やす」ことを掲げています。

1	【視点3】 高齢者・障がい者等の暮らしの支援	見守りの目だけでなく、見守り出来る接点を増やしていくのはどうか。	区計画の「推進の視点1」の重点取組に、「隣近所での支えあえる仕組みづくり」を、「推進の視点3」の取組に、「地域の見守り体制の強化」を掲げています。いただいた御意見は、取組の参考にさせていただきます。
2		小さな単位、班単位、隣人両隣で情報を伝え合い見守っていく。近隣間の仲間意識を高めていく。	
3		積極的に見守っているということではなく、回覧板の手渡し等、何となく見ているということが良いと思う。	
4		特に高齢者は色々な方に訪問されると大変だと思うことがあり、それとなく元気な方、若い方々が気配り、目配りで見守ると良いのでは。	
5		まずは信頼関係を築くこと。あいさつや声掛けから初めて、日々のたわいない会話や楽しい時間の共有が必要。信頼出来る人にしか本当の悩みは話さないのではないか。	
6		住民が孤立しないようにしたいが、個人情報保護を重視することが大きなネックとなっている。	区計画の「推進の視点3」の取組に、「地域の見守り体制の強化」を掲げています。また、「推進の視点1」の重点取組に、「隣近所での支えあえる仕組みづくり」を掲げており、青葉ふれあい見守り事業地区連絡会等を活用し、個人情報について地域で理解を深める機会をつくっていきます。
7		守秘義務が生じる。研修等でのボランティアの育成が必要。	
8		個人情報を公開できないので難しいが、ふつうに地域が仲良く出来れば良いと思う。	
9		民生委員だけでなく、地域のボランティアとの関わりも必要。福祉施設への協力、老人会の参加、情報提供。	
10		認知症、障がい等の理解を深めるため、自治会、老人クラブ等、小さなグループで勉強や話し合う会を重ねる。	
1	【視点4】 子ども・青少年の健全育成	子ども、高齢者、地域の人々が参加できるイベントを増やす。	区計画の「推進の視点3」の取組に位置づけ、地域で認知症や障がいへの理解を深める取組を進めます。
2		孤立している高齢者と育児でいっぱいになっている親子が触れ合う場所が提供されると良いと思います。孫がすでに大きくなってしまっている高齢者は、小さい子と触れ合いたい気持ちでいっぱいなのです。	
3		高齢者と若い世代間交流、子育てを卒業した方が活躍できる場があると良い。	
4		親、子、祖父母世代のグループ(子育てグループ等)が、相互に交流したり、問題を話し合ったりする取組があれば良いのではないかと思います。	区計画の「推進の視点4」の重点取組に、「子育て支援のネットワークの強化」を掲げ、子育て支援拠点ラフォーレを中心として、様々な世代の子育て世代間での情報共有が図られるよう取組を進めていきます。
5		学校を利用し、年代が違う者同士がコミュニケーションが取れる場が欲しい。地元の人の話を聞く。昔の町、歴史など地区センターなどで、色々な世代の方とコミュニケーションを取れる企画があると良いのでは。	区計画の「推進の視点4」の重点取組に、「学校等と連携し、子どもや保護者も参加できる地域活動や福祉保健に関する取組を充実させていく」ことを掲げています。いただいた御意見は取組の参考にさせていただきます。
6		自分たちの住んでいる町にはこんな素晴らしい、人、もの、行事等があると分かれば愛着を持つことができると思う。地域特有のそこにしかないものを意識したら良いと思う。	区計画の「推進の視点4」の「地域の皆さんが取り組むこと・心がけること」に、「子どもたちが地域の活動に参加し、自分のまちに愛着を持てる機会をつくろう」という内容を盛り込みました。
7		地域企業に協力してもらい、職業体験や見学をさせてもらう機会を増やす。	今後の取組の参考にさせていただきます。
8		高齢者、障がい者、子育て中の親子、赤ちゃんに声掛け、やさしく接するというだけでなく、大人や中学生に接する場、話す、赤ちゃんを抱くなどの体験する機会、リハーサルできる場がもっとほしい。	
9		中高生が小さい子どもと接する場があると良い。自分も大切に育て育ったこと、ぬくもり、やさしさを感じてもらえ、自分が親になる…という未来に向けてのイメージが作られるのでは…と思います。命の大切さにもつながるのではとも思います。	

10	【視点4】 子ども・青少年の健全育成	登下校のパトロール(PTA・自治会との連携)。	区計画の「推進の視点4」の重要取組に、「子どもや保護者を地域全体で見守ること」を掲げ、取組を進めていきます。
11		小学生の見守りも地域全体でできるようになれば良いと思う。	
12		不登校の子どもの居場所が地域にあると良い。	区計画の「推進の視点4」の取組に、「青少年が地域に見守れながら健やかに成長できるよう、地域と連携した取組の推進」を掲げており、様々な状況にある児童への支援にも取り組んでいきたいと考えております。
13		社協のイベントは高齢者向けが多く、乳幼児や障がい児者向けの企画もあると良いと思う。	地区社会福祉協議会の活動は地域の皆さんが企画運営されており、乳幼児向けの子育てサロンを実施している地区もあります。一方、障がい児者向けの事業については、少ない現状にあると思われまます。今後取組が充実していくよう、いただいた御意見を地域の皆さんとも共有していきます。
14		仕事と子育ての両立をしたいが預ける場がないとの声をよく聞く。安心して預ける場所がもう少し必要ではないかを感じる。	横浜市子ども・子育て支援事業計画において、仕事と子育てを両立できるように市全体で施策を進めています。また、今後は地域の中で、子育てを応援する環境づくりもあわせて進めていく必要があると考えております。
15		スーパー等に子連れから高齢者まで使える休憩スペースがあるとよい。大きなデパート等には授乳室やキッズスペースはあるが、日常の買い物、子どもを連れてスーパーに行くのが大変な時期があります。休憩がてら近所の買い物客同士交流できたり、たまに支援者が立ち寄って話を聞いたりできたら…と思います。	今後の取組の参考にさせていただきます。
16		近隣とのつながりがあまりなく「一人で子育て」をしている母親が多いと思う。遠くまで出かけると何かがある…というのではなく、近所で皆で子育てができる環境を整えたいと思う。	区計画の「推進の視点4」の取組を進めるうえで、地域で安心して孤立せず子育てができるよう、「地域育児教室」「子育て相談会場」「子育て広場」等、身近な地域で安心して子育てできる環境をつくりを進めるとともに、子育て支援の担い手育成を充実させていきます。
17		結婚で地方から転居してきた方が多く、知り合いもいない中での出産・子育てをしている親子は孤立しやすく、何か困ったときにもどこに助けを求めたら良いか困っている人は多いと思います。親子のつどい広場は、公園などと違って、誰も知り合いがいなくても必ずスタッフがいますので、初めての親子でも利用しやすいと思います。スタッフが間に入り、知り合いの輪を広げていく利用者さんも多いです。このような役割を持つ場所が増えると良いなと思います。	
18		知らない人同士が集まっても、以前からの知り合いとばかり話してしまって、新しい方が孤立してしまう場合がある。仲介する方がどンドン声を掛けることにより、子育てママは安心してつながりを持つことができるかなと思います。	
19		乳幼児のお母さんは孤立しやすいと言われていています。子育て広場が利用できると良いのですが、そのような場所が苦手な方も少なからずいると思います。自分のことを話したりする必要なく、子どもといっしょにバツと行ってサクッとリフレッシュできる、テーマ(リトミック等)のある場所が良いと思います。	
20	ボランティアを「する」側でなくても、子どもたちが何かを教えたら、受け手側に立つことも一つの役割と考えて良いのではないかと思います。	今後の取組の参考にさせていただきます。	
1	【視点5】 健康長寿のまちづくりの推進	つながって信頼関係があれば安心感が増します。健康づくりではケアプラザはもちろん学校など地域の身近な施設での健康づくりの機会や関係性を構築することによって、安心感は増すと思います。	区計画の「推進の視点5」の重点取組に、「地域の中で健康づくりができる機会を増やし、健康づくりをとおして、地域の交流を深める」ことを掲げています。
2		全ての世代に共通して「健康」というテーマは大切です。遠くに出向かなくても、近所の公園等で、誰でも参加できる体操・ストレッチ講座があると良い。	区計画の「推進の視点5」の取組に、「子どもから高齢者まで、誰もがライフステージにあった健康づくりができるよう支援を進めていく」ことを掲げています。

1		災害時の共助が実現できるように、定期的に防災情報を発信する。	区計画の「推進の視点6」の取組に、「防災や災害対策に関する取組を広報し、区民一人ひとりへの「自助」「共助」の取組を啓発していく」ことを掲げています。
2		防災対策について大勢で話し合う場があると良い。	今後の取組の参考にさせていただきます。また、地区別計画の目標に、防災に関する内容を掲げている地区が多数あり、今後地区別計画推進会議の場等において、話し合いが継続されていくことと思われます。
3	【視点6】 災害時でも安心のまちづくりの推進	災害時については、防災拠点での体制や災害時のボランティアセンターの関係性をもっと強化し、日頃から青葉区での体制を積極的にPRしたり、拠点訓練の内容をもっと多くの地域住民が関わられるようなモデルを作っていくことが必要かと思う。	区計画の「推進の視点6」の重点取組に、「医師会や病院等の医療関係団体・機関と連携し、災害時の医療体制の整備と普及啓発に取り組むこと」を掲げています。 また、いただいた御意見を参考に、「地域の皆さんで取り組むこと・心がけること」に、「自分の住んでいる地域の防災訓練に参加し、地域での防災の取組を知っておこう」という内容を盛り込みました。
4		中学生との関係を深め、災害のみならず「自分たちの街」意識を高めてもらうため、町内会と協力して、年2回程度イベント(防災訓練、運動会など)をする。	各地域防災拠点の訓練に中学生が参加している拠点もあります。引き続き、訓練への参加を通じて、日頃から顔の見える関係づくりが進むことを期待しています。 また、いただいた御意見を参考に、区計画の「推進の視点4」の「地域の皆さんが取り組むこと・心がけること」に、「子どもたちが地域の活動に参加し、自分のまちに愛着を持てる機会をつくらう」という内容を盛り込みました。

(3) 住民一人ひとりが取り組むと良いことについてのご意見

	意見	区としての考え方
1	近所でお互いの顔を知ること。地域の同士で顔を合わせる機会や場所があると良い。	区計画の「推進の視点1～6」の「地域の皆さんが取り組むこと・心がけること」の内容をまとめるにあたり、いただいた御意見を参考にさせていただきました。 今後ぜひ実践していただくとともに、地域福祉の推進に引き続き御協力をお願いいたします。
2	挨拶、声掛けだけでなく”しかる””注意”も必要。	
3	挨拶や声掛けでもいいが、「隣人がいる」という意識をしていくことで十分。	
4	親も地域の一員として、気軽に声を掛け合うようにしていきながら、地域の方とコミュニケーションを取っていく。	
5	どんな年代の人でもまずは挨拶。困っている人がいたら声掛けを。	
6	深いつながりでなくとも、まずは「知っている人」がたくさんいるのが大事。(障害のある人も含めて)人の顔を良く見ること。	
7	親の立場から出来ることは、自分の子どもだけでなく近所の子どもたちにも挨拶や声掛けをして、地域で見守られている意識をもってもらおうこと。	
8	知らない人でも家や近所であつたら挨拶をする。防犯にもつながる。	
9	一人で歩いている子どもや高齢者に気軽に声を掛けられる関係を築く努力。	
10	地域清掃への参加、高齢者の見守り。	
11	やさしい心と声をかける勇気を持つ。	
12	青葉区民全員が手話でこんにちはなどできたら、素敵ですね。白杖の人への声かけの仕方など知っておくと良いのでは。	
13	おせっかいの気持ちを持つこと。	
14	防災訓練のお手伝い。	
15	自治会にまず加入してもらうこと。	
16	子ども達には挨拶を。お母さんには声をかけ顔見知りになること。	
17	マンションの中でも知らない人が多いので、近くから関わりを深くしたい。	
18	声掛けとチョコボラ運動の推進。	
19	地域の班単位のコミュニケーションを持つようにしたら、ごく身近な隣人たちとの関係も密度が高まり、共存意識が高まると思う。	
20	お互い様の気持ち。ご近所や友達に少ない勇気を持って、甘えてみると、頼られるのも案外嬉しいもの…。そして、別の時には、自分がちょっとしたお手伝いが出来たりすることもあります。	